

国際協力の現場を語る

JICA（ジャイカ：国際協力機構）は、開発途上国の発展を支援するため、実務の経験と知識を持ったシニア（40歳～69歳）を途上国に「シニア海外ボランティア」として派遣しています。この人達はシニアならではの、海外旅行などでの体験とは違ったいろいろな体験をしてくれています。そんな話題も含めて体験を語って頂きます。

日 時：毎月第3水曜日 15時30分～17時

会 場：JICA 横浜 会議室またはセミナールームなど

会 費：無料（どなたでも自由に参加出来ます）

主 催：NPO「シニアボランティア経験を活かす会」

後 援：JICA 横浜

（やむを得ず日時・会場が変更される場合があります。事前にシニアボランティア経験を活かす会ホームページまたは下記問い合わせ先に確認して下さい）

問合せ先：横浜市中区新港2-3-1 JICA 横浜3階 国際協力連絡室内

シニアボランティア経験を活かす会 神奈川分会

Fax:045-663-3263 担当：白井道雄（045-891-5490）

URL jicasvob.com E-mail info@jicasvob.com



赴任国（講師名）	「タイトル」 講演概要
第119回 7月15日 (水) ペルー (佐藤敬子)	 <p>「ペルーの高齢者施設での活動」 私は2012年3月から2014年の3月まで、ペルーのベンタニージャにある日系人と日本人のための老人ホームでレクリエーション（編み物・絵・折り紙等）担当として活動しました。利用者は42名、平均年齢は77.5才です。ほとんどの人が認知症や病気を持っており、全面介助を必要とする人が11名いました。</p>
第120回 8月19日 (水) ドミニカ共和国 (生方 悠)	 <p>「ドミニカ共和国での環境行政」 首都サントドミンゴ市役所の環境情報センターに派遣された。配属先には水質分析機器はなかったため、環境省の水質分析室を借用して地下水の水質を分析し、地下水の硝酸態窒素濃度の数値計算の値と一致したことから、地下水は清澄な水であることを明らかにした。また過剰冷房などエネルギーの無駄使いが多く見られたので、省エネ機器の展示室を提案したところ、数年以内のセンターの建て替え時には実現の運びとなった。</p>
第121回 9月16日 (水) エクアドル (安藤二葉)	 <p>「エクアドル共和国のチンボラソ山の麓にて」 エクアドル共和国中央部のアンデスの山々を見上げながら、農民の「一村一品」運動を手伝う傍ら、県民の健康と安全を守るべく「救命蘇生と防災非難訓練」のコーディネートをした。しかしアンデスの大自然と共にスペイン植民地時代を生き抜き、ジャガイモとトウモロコシを糧として、リヤマの毛を紡ぎ、蛋白源となるクイ（食用ネズミ）を飼ってつましくも大地に根ざしたインディオ先住民の知恵を学んだ。</p>
第122回 10月21日 (水) メキシコ (森野 謙)	 <p>「メキシコで先住民の地場産業育成と一村一品運動の推進」 メキシコ南部の先住民が多く住む貧困州（オアハカ）で、地場特産品である蒸留酒やチョコレート、木工細工や刺繍などの手工芸品の製造や流通面の調査と販路拡大に向けた提言や一村一品運動による地場産業の振興など地域開発の活動に従事。またメソアメリカ古代文明の土着文明と三百年間植民地であったスペインからの渡来文化が融合した独特の色彩と雰囲気を持つメキシコの魅力も紹介します。</p>
第123回 11月18日 (水) フィリピン (政金 驍)	 <p>「楽しいフィリピンのボランティア生活」 成田空港からマニラまで4時間ほど。空港を一步出ると真夏の太陽が照りつける常夏の国フィリピン。マニラから長距離バスで7時間のラ・ウニオン州サンフェルナンドが私の赴任地でした。そのTESDA（政府認定の職業訓練所）に赴任し、自動車整備科で自動車整備の指導に携わりました。サンフェルナンドは海に近く新鮮な魚が豊富に市場に並び、果物も豊富でとても楽しい一年でした。</p>